

苫小牧市社会福祉協議会 生活支援コーディネーター

地域活動におけるアンケート調査 第2弾 集計結果

【多くの団体様からアンケートにご協力いただきました！】

町内会 82 団体中・・・**61 団体 (74.4%)**、老人クラブ 51 団体中**43 団体・・・75.4%**
ふれあいサロン 68 団体中・・・**56 箇所 (81.16%)** とすべての団体で**7割以上の回答数**と、非常に多くの方々からご回答を頂きました。誠にありがとうございました。

【昨年5月に実施しました、前回のアンケート調査(第1弾)と比較して・・・】

昨年4月時点での地域活動は感染拡大前と比べて、**約2割まで減少**。また、長期化する外出自粛による心配ごととして、「**地域活動の再開**」が最も多く挙がっていました。

一方、今回のアンケート調査(第2弾)では、**4割以上の団体が活動再開の意向があった**ことや、感染対策に留意しながら、**3割程の団体が災害に備えて、毎年、防災訓練に取り組んでいる**など、少しずつですが、活動再開の兆しも見えてきております。

本アンケート調査をふまえて、今後、更に情報を発信していくとともに、地域の皆様と一緒に、より良い地域を目指していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

※なお、本調査は「令和3年4月23日から令和3年5月10日」の間に実施したものであり、5月16日に発令された緊急事態宣言前における調査となります。

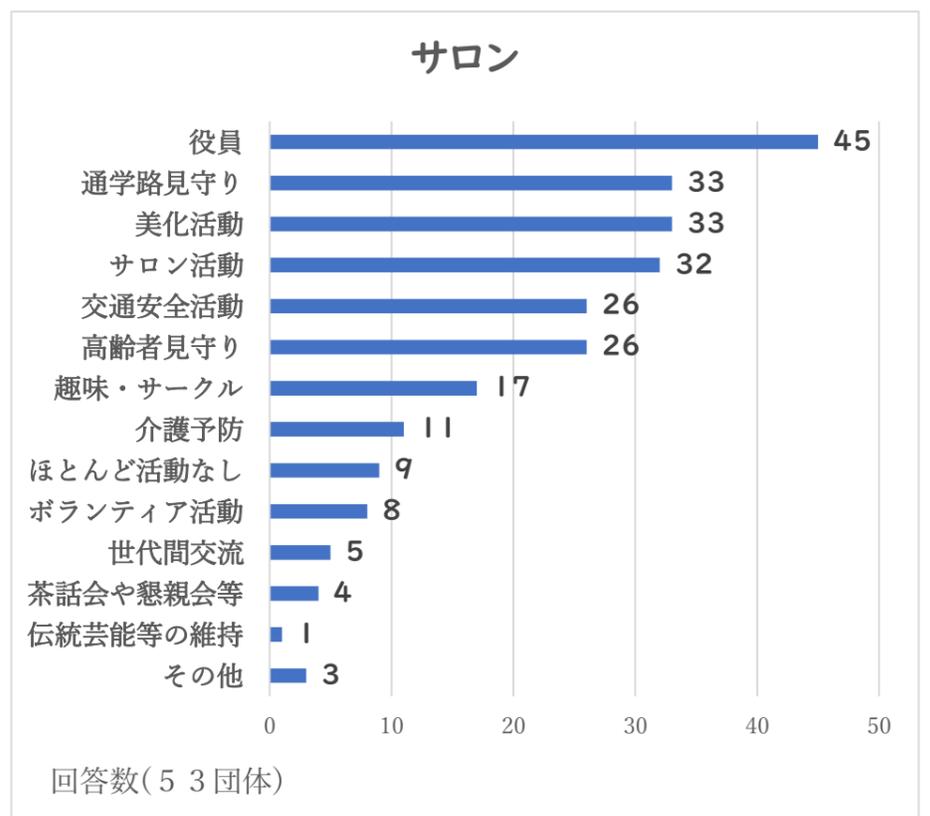
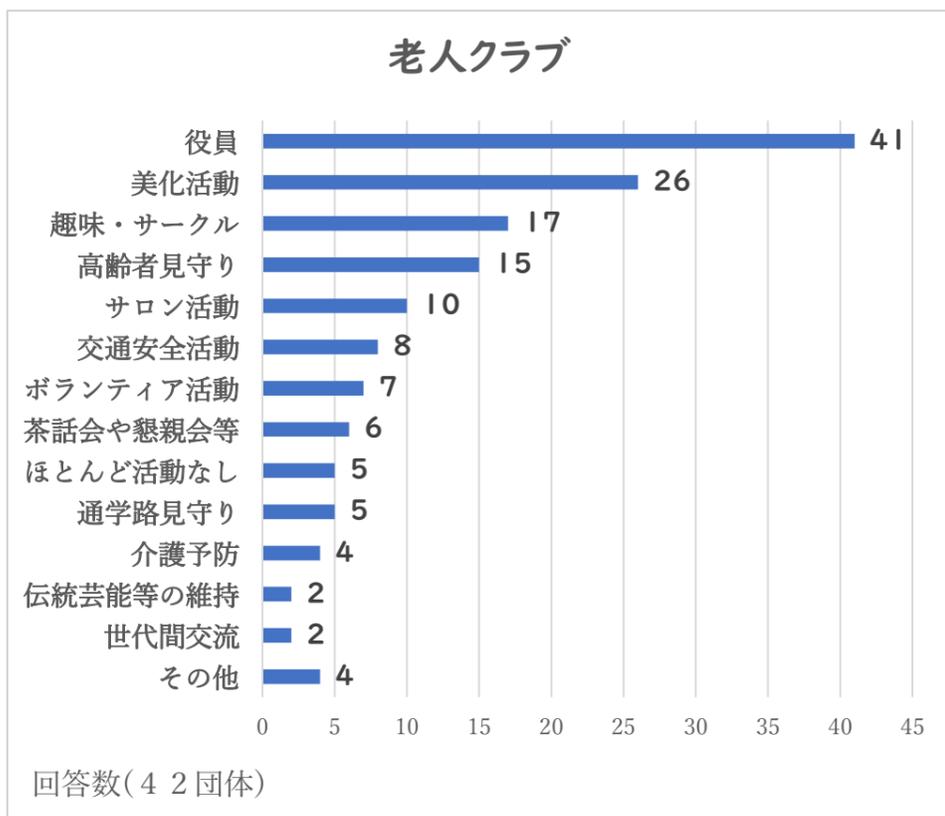
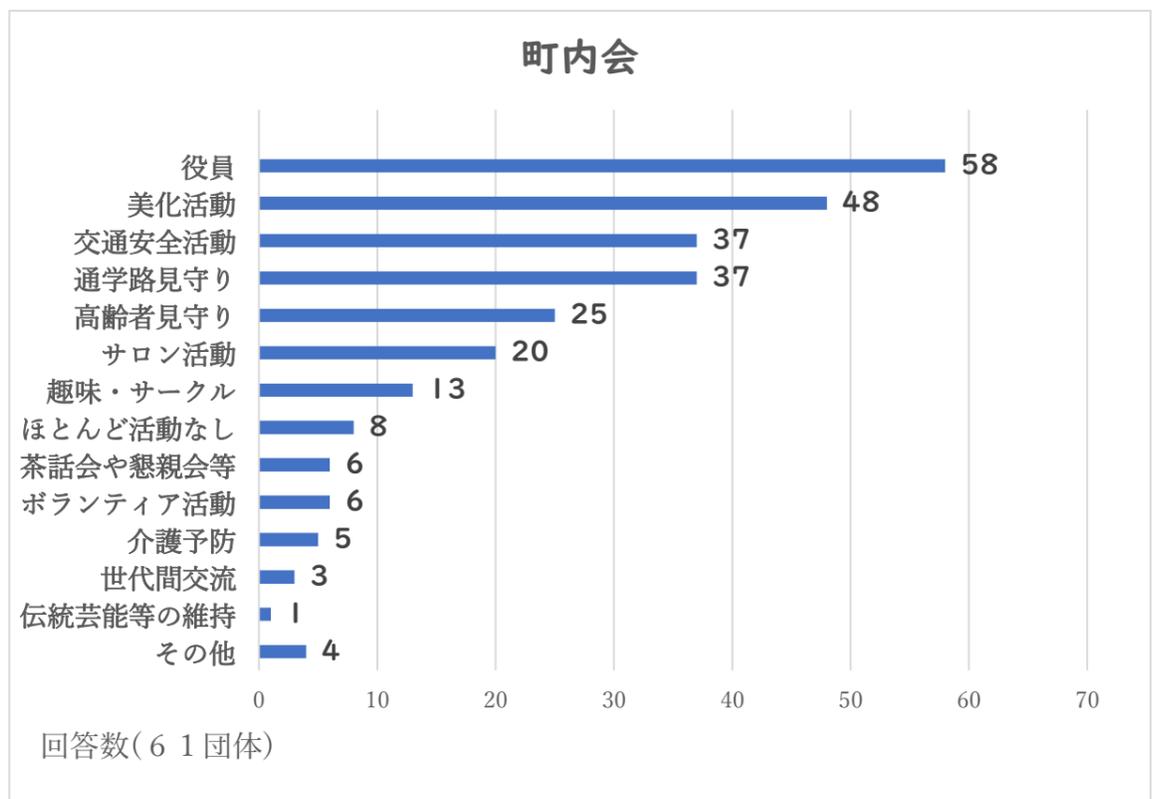
設問1 令和3年4月時点で実施している地域活動について

コロナウイルスの影響により、「役員会のみ実施」との回答が多くあった。

次いで、「美化活動」や「見守り活動」など**屋外活動**が多くみられた。

一方、「世代間交流」は**1割未満**に留まった他、「ほとんど活動なし」についても全ての団体で**1割以上**の回答があった。

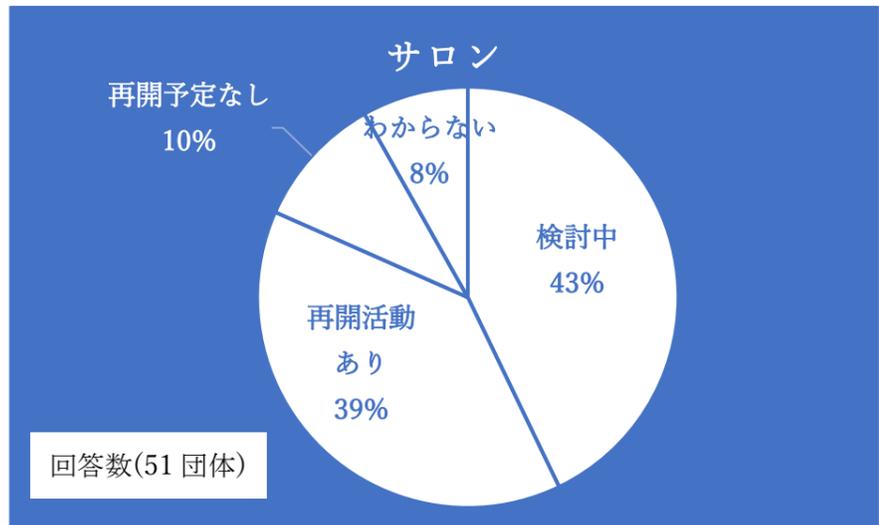
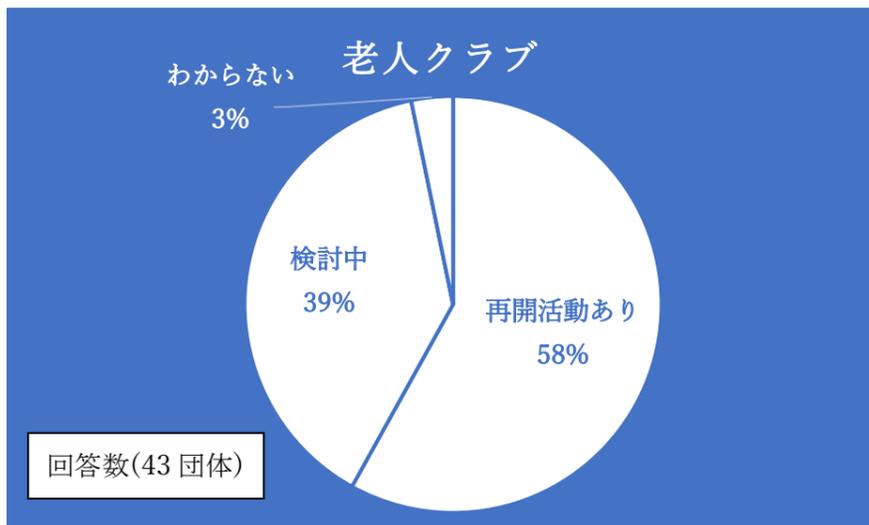
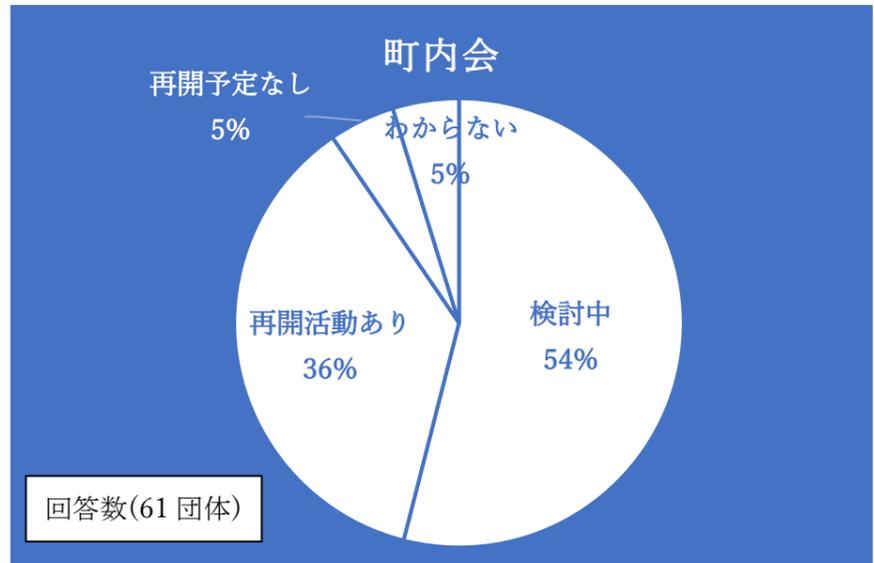
その他の活動としては、独自の脳活塾や健康ウォーキングなどの回答があった。



設問2 令和3年5月以降における再開する活動について

緊急事態宣言前の状況ではあるが、5月以降、地域活動の再開状況について、**約4割以上**が地域活動の再開ありと回答した結果となった。

特に、老人クラブでは、**約6割**の団体が「再開する活動がある」と回答した結果となった。



設問3 設問2について、「再開する活動がある」について、具体的に以下の回答があった。

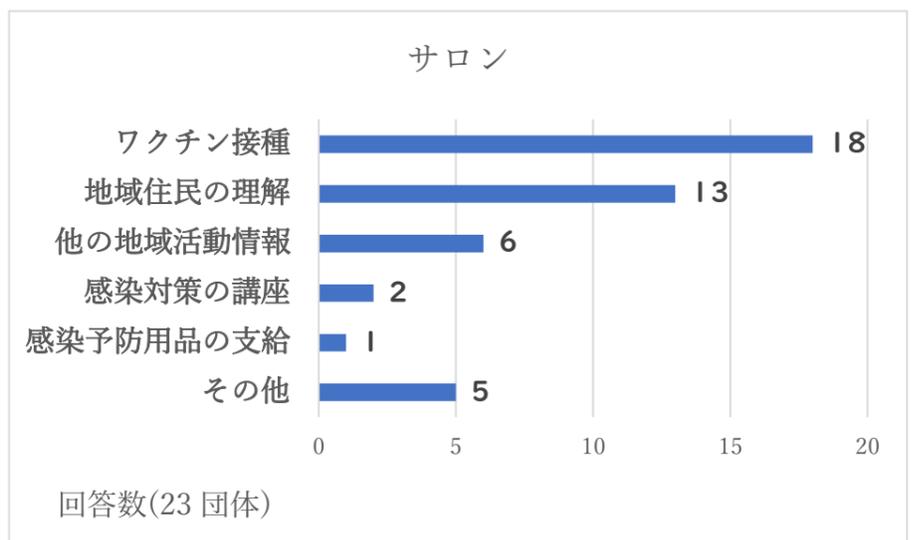
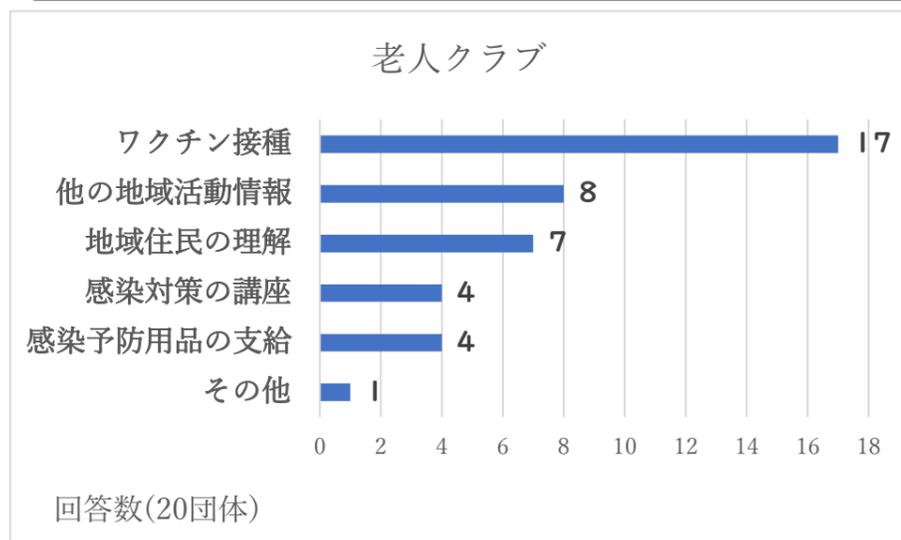
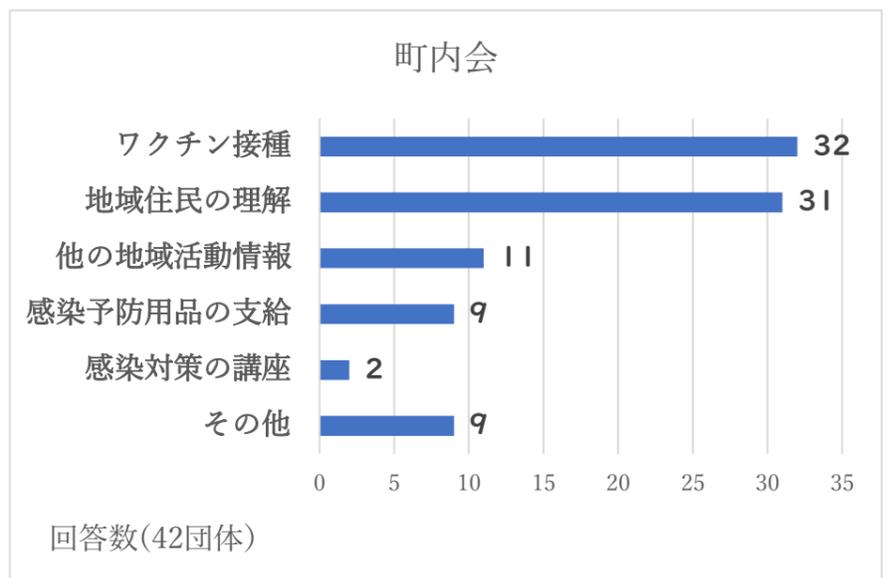
町内会については、「防犯や見守り、美化活動」などが中心として回答があった。また、老人クラブとサロンに関しては町内会と同様、美化活動の他、「**防災**」に関する回答が多くあった他、「園芸サークルやラジオ体操、読書会」などを通じた「**集いの場づくり**」に関する回答があった。その他、一部の団体では、「子ども自転車教室や小学校の農園指導」などを通じた「次世代交流」を図っているとの回答もあった。

設問4 地域活動再開における必要なことについて

全ての団体において、「**ワクチン接種**」について最も多く回答があった。次いで、「地域住民の理解」、「他の地域活動情報」についても多くの回答があった。

感染対策の講座については、少数の回答であった一方、町内会からは「感染予防用品の支給」に関して、約2割の回答があった。

その他、「新型コロナウイルス感染の沈静化」などの回答があった。



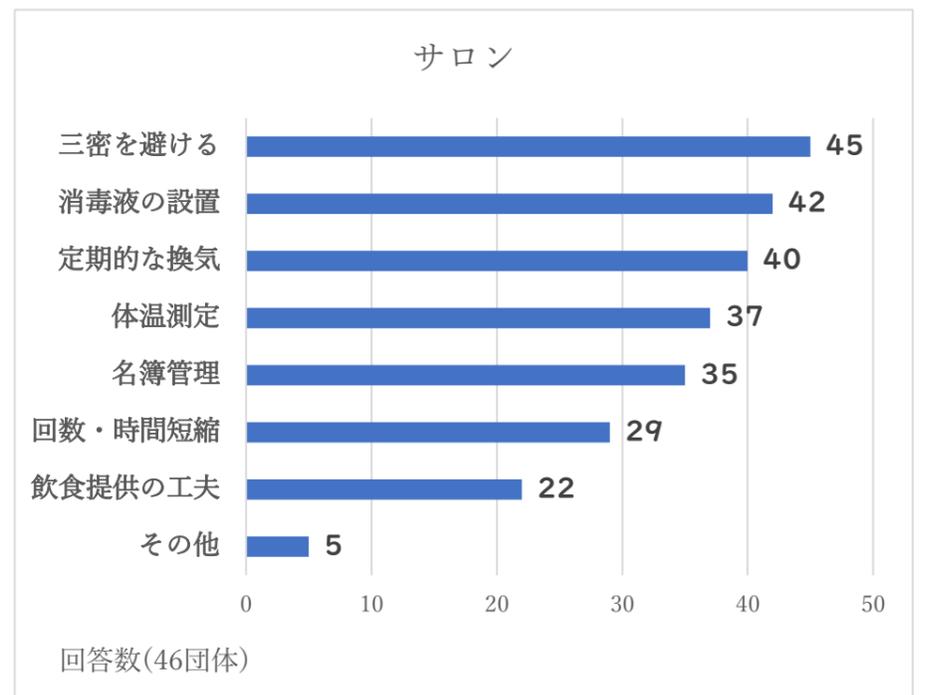
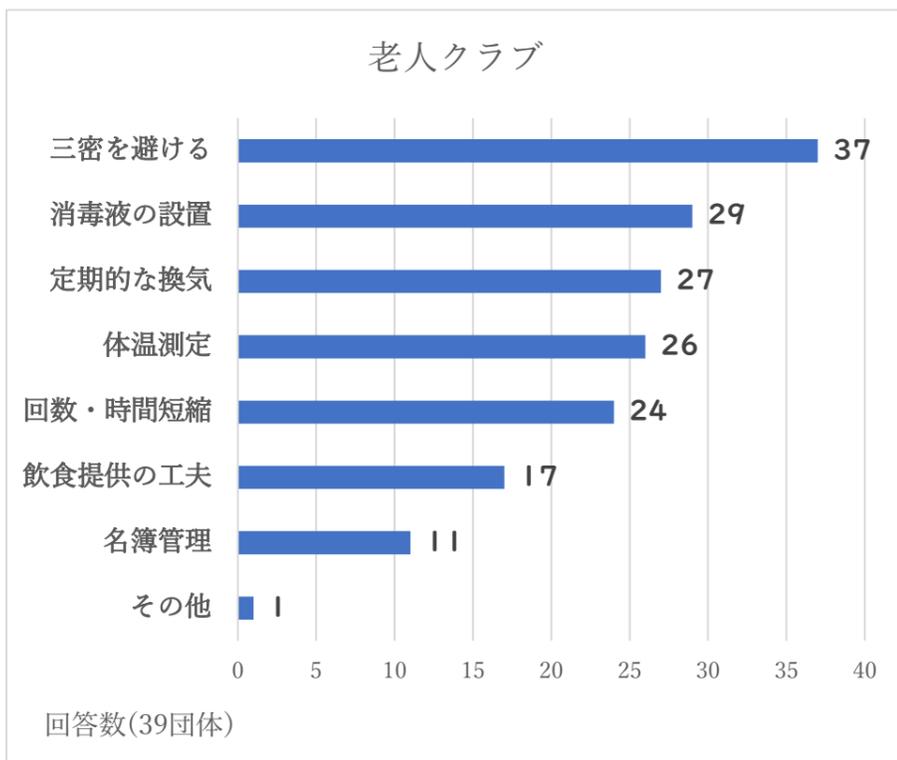
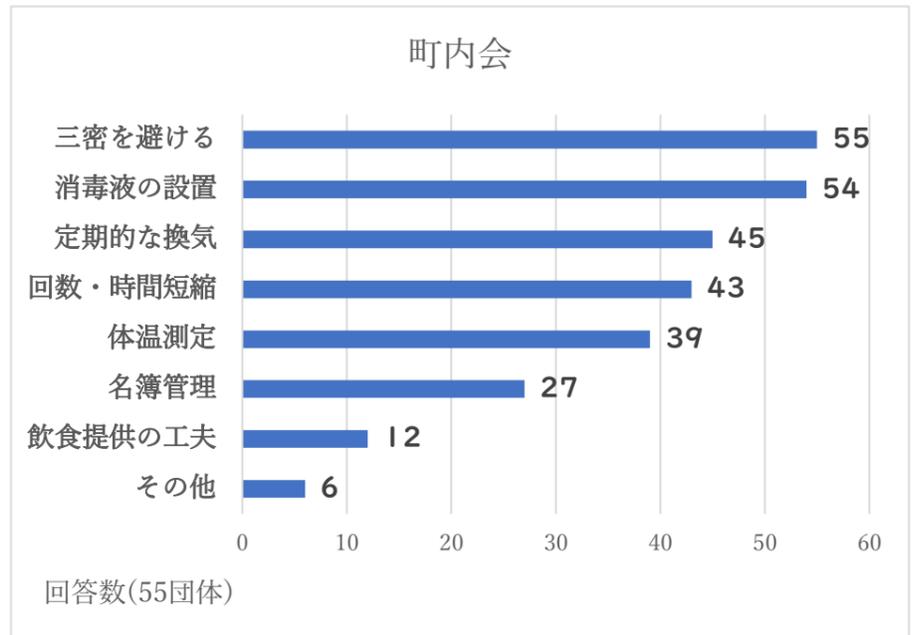
設問5 現在、既に地域活動をしている中において、活動再開のきっかけとなったことについて

活動再開のきっかけとして、「十分な感染対策の準備」や「暖かい時期となり、換気や屋外活動ができるようになったため」などの回答があった。また、「ずっと家の中にいると心も身体も不安になる」との地域の声から活動再開のきっかけになったと回答した団体も多くみられた。

設問6 活動時の感染対策として取り組んでいることについて

全ての団体で「三密を避けること」や、「消毒液の設置」、「定期的な換気」など活動時の感染対策として同様の回答が多くみられた。なお、三密を避ける手段の一つとして、「屋外活動の実施」との回答があった。

また、「他の町内会の活動を新聞などで知り、活動時の感染対策に取り入れていること」や、役員の会議を「リモート会議」で実施しているとの回答もあった。



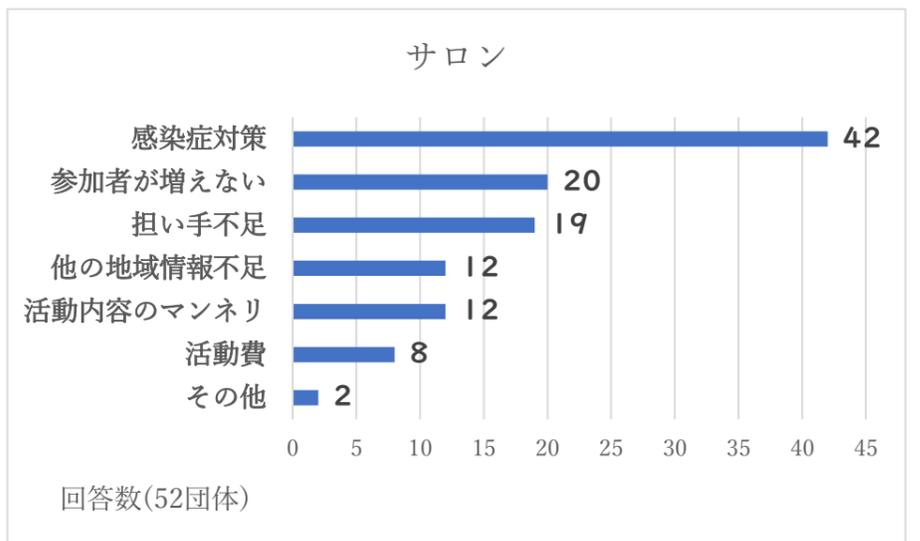
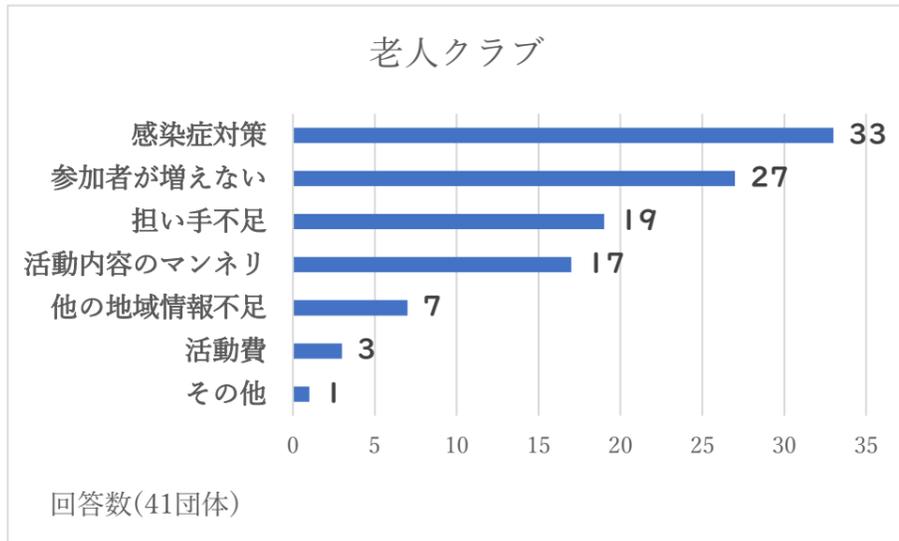
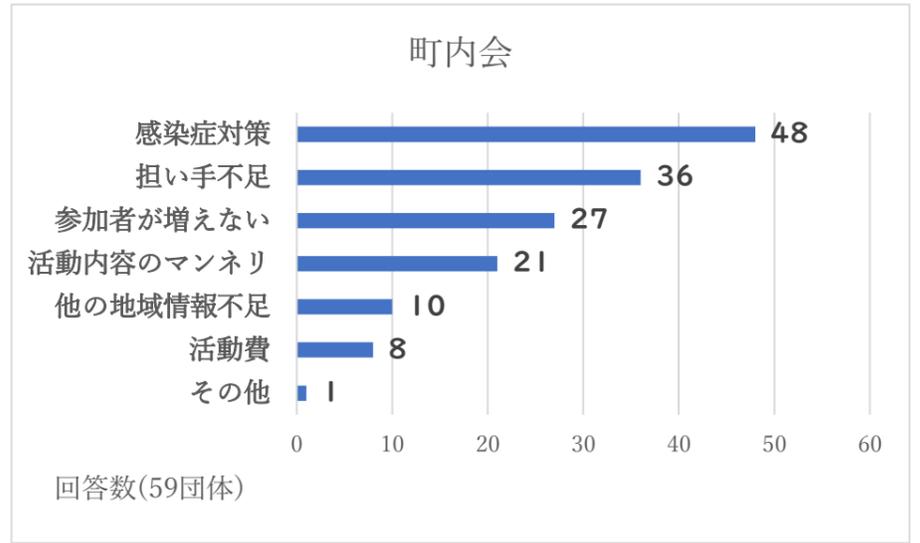
設問7 飲食提供時における工夫または、気をつけていることについて

「弁当類の持ち帰り」がもっとも多く、具体的には、サロン終了後に会員にお渡ししている等の回答があった。

また、「飲料だけの提供、または各自持参」などの団体もあった。その他、「お菓子を小分けにする」や「飲食類を提供する者をあらかじめ役員で決めている」、「紙コップ類に会員の名前を記載し対応している」との回答もあった。

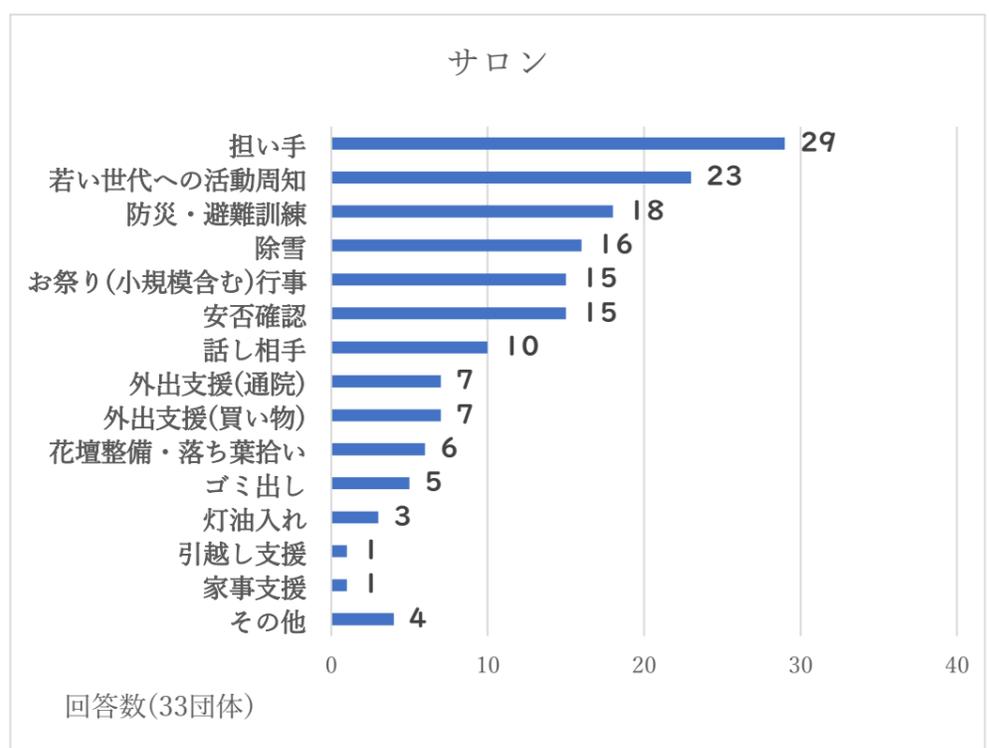
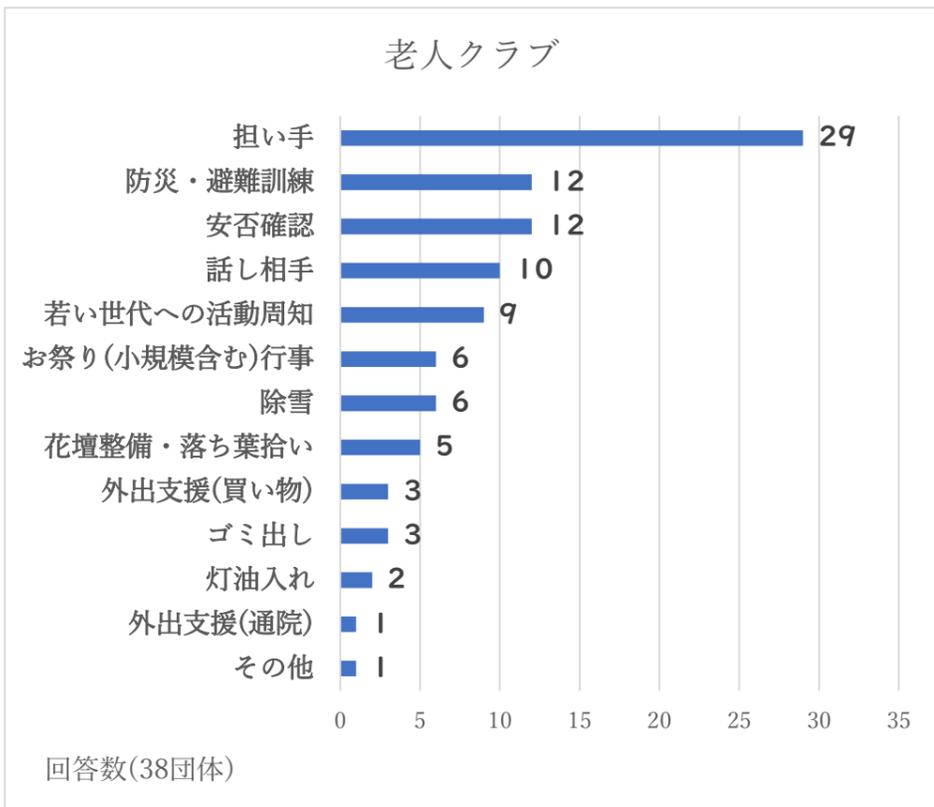
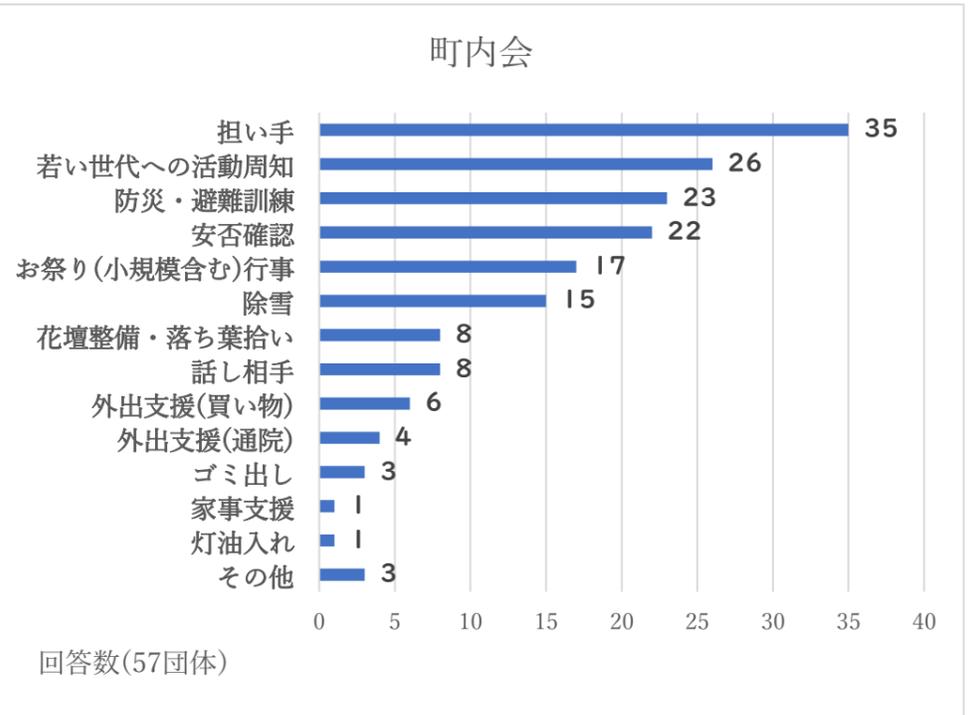
設問8 今後、地域活動を再開・継続するにあたり課題に感じていることについて

「感染症の対策」について、最も多く回答があった。次いで、「役員等の担い手不足」や「参加者が増えない」、「活動内容のマンネリ」などの回答が多くみられた。その他の回答では、「三密にならない活動が難しい」や、「活動の周知方法」、「会館までの移動手段」について課題を感じているとの回答があった。



設問9 現在、地域で必要とされている支援について

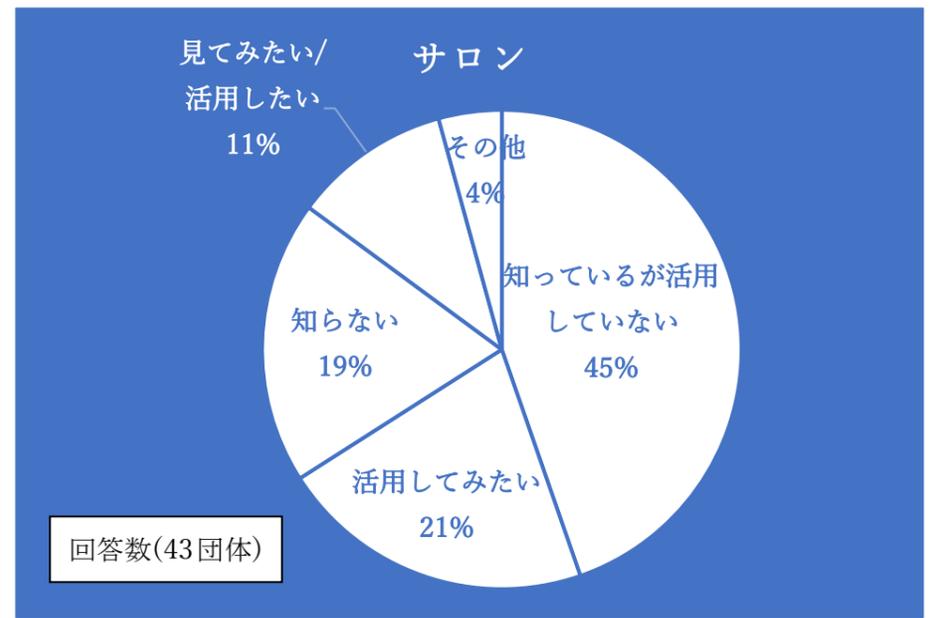
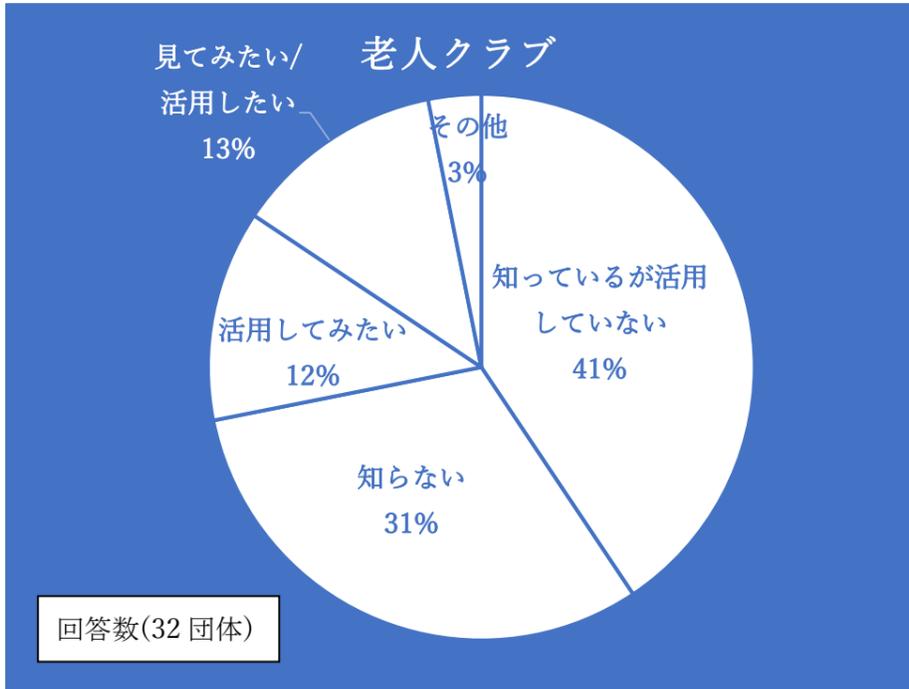
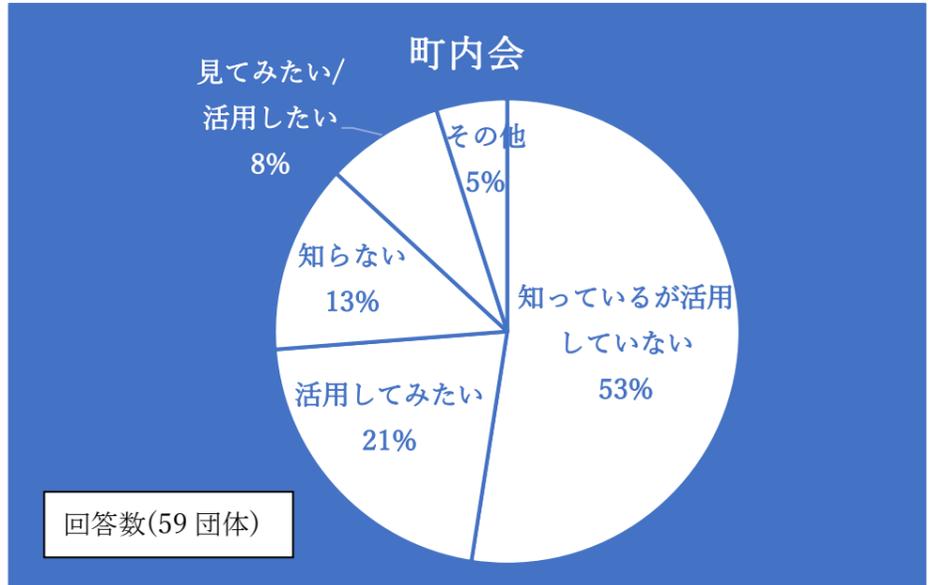
全ての団体で、「地域の担い手」が最も多く回答があった。次いで、町内会とサロンでは、「若い世代への活動周知」との回答があった。また、「防災・避難訓練」や「安否確認」についても、多くの回答があった。その他では、「母子・父子家庭への子育て支援」や「子どもが安心して過ごせる居場所」、また、実際に地域からの声は挙がっていないが「お祭り等の行事」が今必要にされているのではないかなどの回答があった。



設問 1 0 避難行動要支援者支援制度（名簿） について

全ての団体で、**4割以上**が知っているとの回答があった。
 活用の内容としては、有事に備え、「あらかじめ各担当を、名簿などで割り振りし、安否確認を実施」との回答があった。

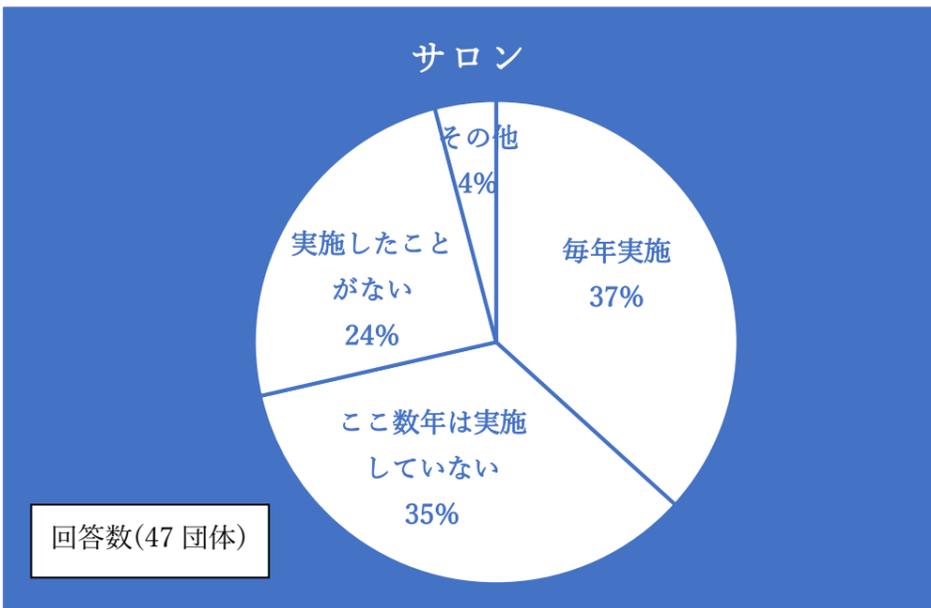
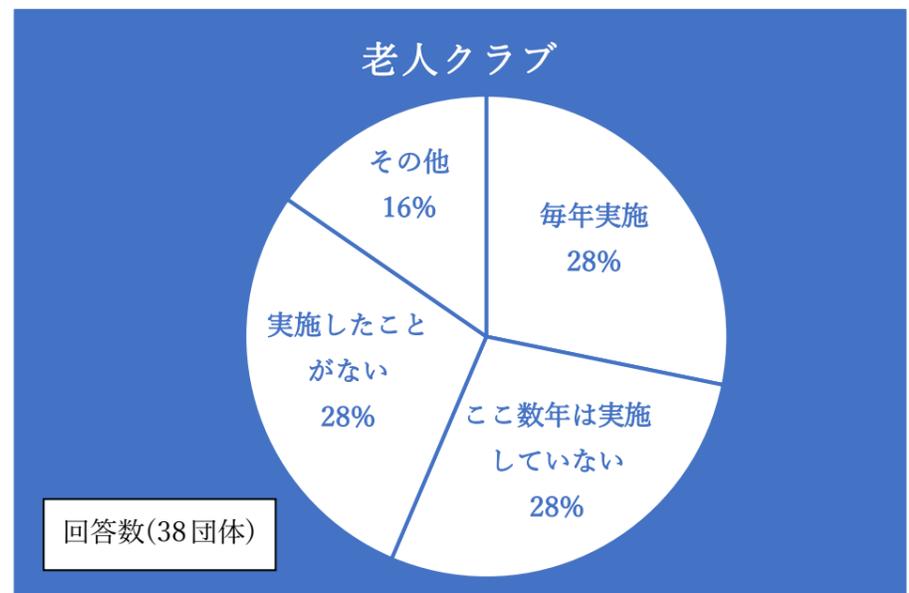
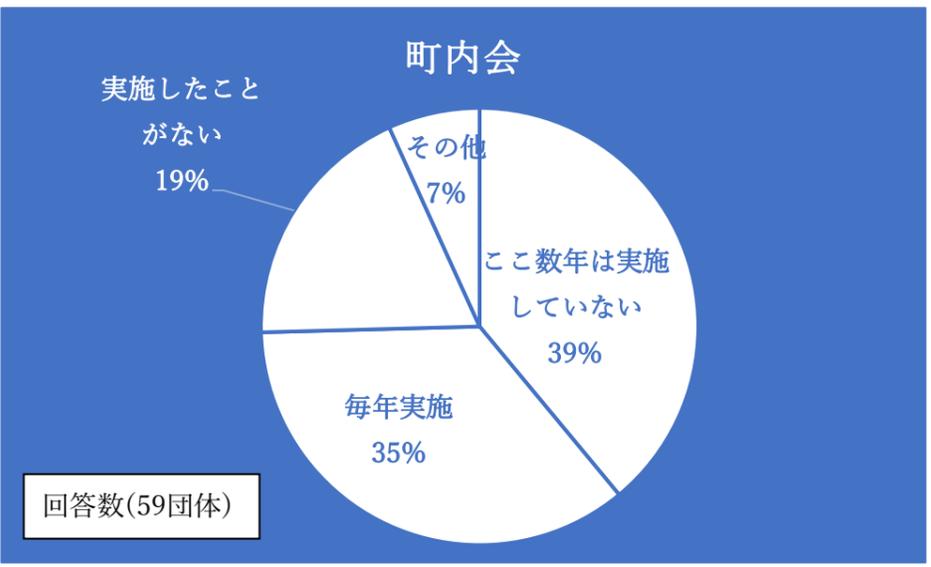
一方、活用に至っていない理由として、「実施はしたいが、担当する役員が少ない」、「名簿のみ市へ提出」などの回答があった。



設問 1 1 災害を想定した避難場所や経路における、避難訓練を実施したことがあることについて

昨年はコロナ禍で中止した団体が多くあった中、**約3割**の団体は「毎年実施している」結果となった。一方、これまで実施したことがないと回答した団体も「2～3割」と一定数の回答があった。

実施内容として、「市の避難訓練や、学校との共同実施、図上訓練」などの回答があった。また、昨年はコロナウイルスの影響により、「講習会のみ実施」したなどの回答もあった。



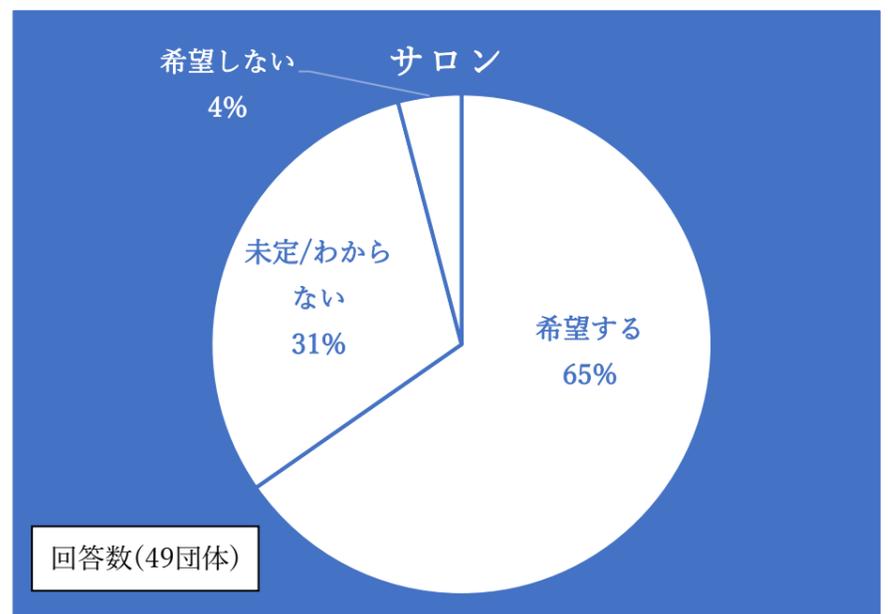
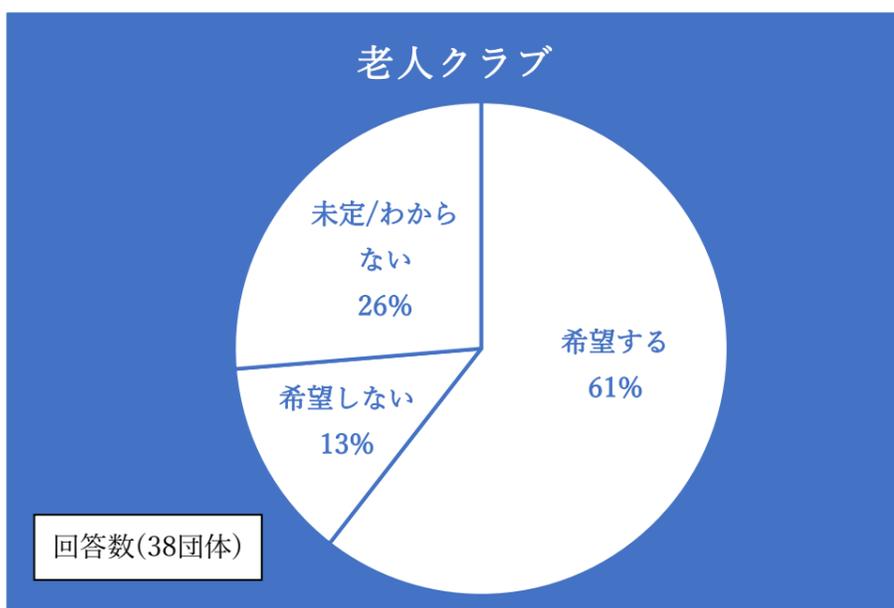
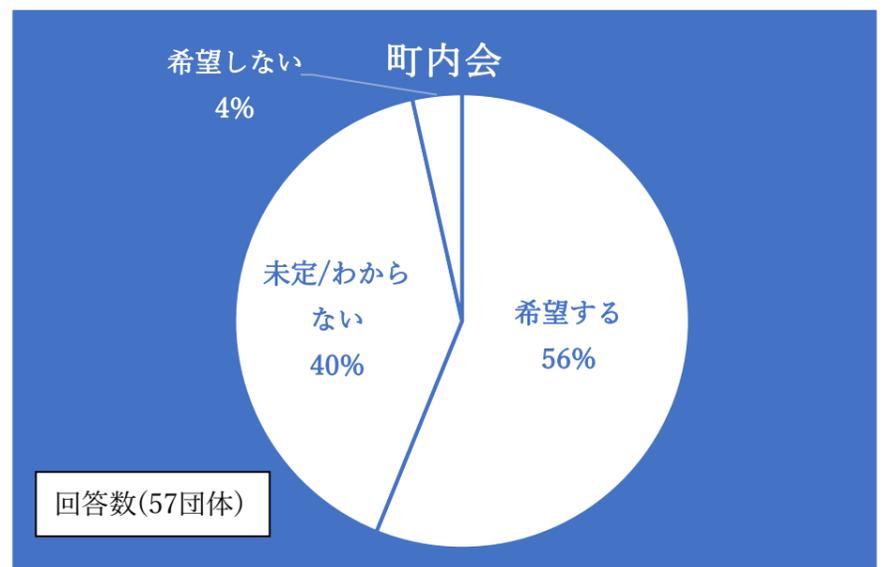
設問 1 2 市(危機管理室)や社会福祉協議会による希望する防災講座について

全ての団体で5割以上が防災講座について希望すると回答があった。

希望する講座内容としては、「模擬訓練や図上訓練」が多くを占める結果となった。

具体的には、「身近な防災」や「高齢者に対する支援」、「名簿や「ハザードマップの活用方法」、「防災グッズづくり」、「コロナ対策も含めた避難訓練」などの回答があった。

一方で、「団体として希望はするが回覧などで周知をしても中々人が集まらない」など、防災訓練の開催自体に課題が生じている団体もみられた。



町内会

図上訓練
 模擬訓練
 講演
 避難所運営
 市と町内会の役割
 水害
 コロナに対応も含めた講座
 避難所での生活体験談
 身近な防災
 避難所内部・備蓄の確認
 高齢者等の避難時支援

0 2 4 6 8

老人クラブ

模擬訓練
 図上訓練
 心臓マッサージ
 ハザードマップの見方
 社協と相談
 避難行動要支援者名簿の活用
 町内会と共同
 避難方法

0 1 2 3 4 5 6

サロン

模擬訓練
 図上訓練
 防災グッズの管理・使用方法
 防災グッズ作成
 ドリル
 講演
 避難所運営

0 2 4 6 8

設問 1 3 見守りホットとガイドブック集の活用、利用方法について

昨年、社協にて発行した「地域の見守りホットとガイドブック集」の利用方法について、「内容の一部を、町内会だよりとして発行」や「新たに見守り体制を形成した」等の回答があった。具体的な見守り活動の内容としては、「公園清掃や、朝のラジオ体操を通じた見守り」や、「おうちで楽しめーる便の配達時に安否確認」などの回答があった。

アンケートにご協力頂きまして、誠にありがとうございました！
 今後ともよろしくお願いいたします！